

振り付け・演出、湯浅より、公演直前コメント、その1 パッサカリア

パッサカリアの振り付けについてご質問がありましたので、振り付けのポイントと合わせてお伝えします。

このパッサカリアはシャコンヌのリズムも含む、非常に美しくも難解な曲と言えるでしょう。振り付けは妖精たちがアーサー王を確保するまでの前半と、アーサー王を交えて踊る後半に分かれています。最初の器楽曲で妖精たちが現れて踊り、「愛する者はなんと幸せ」と歌が出るところでアーサー王を誘惑して確保するという仕組みです。

間奏のあとは、異なるステップの組み合わせを多く使い、図形もすべて異なる本格的バロックダンスとなります。ここでご質問の舞踏譜 19 枚を書きました。舞踏譜が無ければこの音楽の素晴らしさと振り付けの一致は伝えられないのです。誘うように誇る様に踊る妖精たち、踊りに加わろうとしたり、惑わされるアーサー王、この少し気弱な様子からだんだんと強さを発揮し、最後は妖精たちをリードするように踊って終わります。

ここの歌詞が素晴らしいです。“For love every creature is formed by his nature (本来、愛の為にすべての生き物は作られたのだ)” どうですか！ 踊ってみたいくなるでしょう！

続いて “No joys are above the pleasures of Love (どんな喜びも愛の喜びに勝る事はない)” No は後退ステップ、Joy や Pleasure には跳躍ステップを使い、私なりのレトリックを施しています。そういうひらめきが振り付けの楽しみの一つですね。

面白いのは、必ず 1 拍目にアクセントが来るバロックダンスのステップを振り付ける事で、途中でどんどん変わる難しいリズムや、色んな拍にアクセントが来るリズムのトリックがしっかりと把握出来て、安定感のあるものになる事です。言葉では表しにくいですが、体感として感じるダンスならではの喜びと言えるでしょう。

パッサカリアは、野を行き、山を越え、湖を横に見て、… パツソ (歩く) カーレ (道)、そんなダンスだと思っています。

パーセルの思いが、天才が、知識が、存分に現れされたこの大曲を、舞踏と共にご鑑賞ください。パーセルもこのダンスを見たら期待以上だと、絶対に喜ぶはずですよ。